

科目名	発達心理学			担当教員	高村 和代	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EFE507
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	様々な視点から、人間の生涯発達を理解する。また、特に幼児期から青年期にかけての子供たちの発達特徴の理解を深める。さらに発達の知見に基づいて、教師として望ましい幼児・児童・生徒との関わりについて、考察することができる。					
授業の概要	まずはじめに、発達心理学における様々な理論を紹介していく。そしてその中から乳幼児期から青年期に関わる発達特徴を取り上げ、児童期の子供たちの発達特徴を具体的に深めていく。さらに、現在の教育問題を考慮し、学校現場で生じやすい問題を取り上げ、発達の知見に基づきよりよい教育環境のあり方について問題提起していく。 【デジタル技術利用 該当番号：①，③，④】					

授業計画	
第1回	発達心理学と教育（これからの授業の進め方，発達心理学とは）
第2回	発達とは遺伝か環境か
第3回	発達を規定する要因
第4回	発達における環境の重要性
第5回	認知発達とは
第6回	乳幼児期の認知発達
第7回	児童期以降の認知発達
第8回	素朴理論とこころの理論
第9回	フロイト・ピアジェの道徳性の発達
第10回	コールバーグ・チュリエルの道徳性の発達
第11回	共感性の発達
第12回	役割取得能力の発達
第13回	友人関係の発達
第14回	エリクソンの心理社会的発達
第15回	青年期の発達

事前学修	2時間	授業時間内に指示する課題を行うこと
事後学修	2時間	授業内容を復習し，次の授業の事前学習との連続性を意識する
フィードバックの方法	UniversalPassportによる理解度チェックを行い，翌授業時間内に全体に対しコメントする	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	内容の理解度，論理性，オリジナリティなどを基に総合的に評価する
上記以外の試験・平常点評価		60%	授業への積極的な参加度，貢献度などにより評価する
定期試験		0%	実施しない
補足事項			

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ発達と教育の心理学	高村和代・安藤史高・小平英志	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1654-2	なし
参考資料				